

KALS NEWSLETTER 57

2018年6月
九州アメリカ文学会
事務局 佐賀大学全学教育機構内
佐賀市本庄町1
〒840-8502

九州アメリカ文学会第64回大会シンポジウム報告

小谷 耕二（福岡女子大学）

今年度（平成30年度）の大会シンポジウムは5月13日（日）午前10時30分より北九州市立大学において行われた。題目は「アメリカ文学と〈境界〉」で、招待講師として日本大学の牧野理英氏にご登壇いただき、KALSからは竹内勝徳氏と岡本太助氏、それに小谷が参加した。

〈境界〉というテーマを設定したのは、平成28年度から行っている科研による共同研究「ホームランドの政治学」との関連からである。ちなみにこの共同研究には竹内さん、岡本さんのほかに、高橋勤さん、下條恵子さん、高野泰志さん、喜納育江さんに参加していただいております、これまで3回研究会を開いてきた。本シンポジウムはその一環として企画したものである。

ご承知のとおり、ホームランドという言葉が注目を集めるようになったのは、9.11同時多発テロを未然に防ぐことができなかったことを踏まえて、ブッシュ政権下で国土安全保障省（Department of Homeland Security）が設置されたのがきっかけであろう。その後のアメリカでのホームランド意識の高まりは、トランプ政権下でもメキシコ国境の壁建設やイスラム圏からの移民の制限といった排外的政策の形をとって持続しており、一方で人や物や情報のボーダーレスな交流・流通が行われ、もう一方でナショナリズムが昂揚するというきわめて興味深い光景が出現している。そこでホームランドをひとつのキーワードとしてアメリカのナショナル・アイデンティティの形成、変容、解体、再構築といったプロセスにどのような政治性の力学が作用しているかを、文学作品をとおして検討してみようというのが、この共同研究の趣旨であった。〈境界〉というテーマはそこから必然的に導きだされてきたものである。ただし、本シンポジウムでは〈境界〉をどのような切り口から論じるかは、各講師にお任せすることにした。以下、各発表の概要を紹介する。

竹内さんの「*The Innocents Abroad*における国家イメージの反転」は、トウエインの初期の旅行記を取りあげ、そこにのちの *A Connecticut Yankee in King Arthur's Court* のアメリカ例外主義に通底する帝国主義的な要素を指摘したものである。竹内さんは、このテク

ストにおけるトウェインの現実認識に、異国のイメージの脱神話化と想像的空間としてのアメリカの拡大という相反するベクトルが併存しており、そこから<境界>を超えるトランスナショナルリズムが<ホーム>としてのアメリカのイメージに内部化され、反転する構造を剔出してみせた。

牧野さんの「異国、収容所、文化人類学—*Letters to Memory* (2017) に至るまでのカレン・テイ・ヤマシタのエスニック・ナラティヴ」は、ヤマシタの最新作がどのようにして新しいエスニック・ナラティヴの形、つまり、収容所や原爆などみずから体験していない集団的記憶を描くという潮流の一例として成立したかを論じたものである。牧野さんはそこに、ルーツはルーツでも根源 (roots) からではなく、経路 (routes) のネットワークから文化的主体が形成されるという文化人類学的な発想 (これは『白鯨』にも共通するという) を見てとり、ヤマシタはそうした経路をたどることによって「帰米」と呼ばれる日系アメリカ人のトランスナショナルな越境のなかに純粋なエスニシティを見出し、自分をそこに位置づけているのではないかと主張した。

岡本さんの「A Haunted House Named Theater——あいまいなものとしての境界」は、テネシー・ウィリアムズやユージーン・オニール、ソートン・ワイルダーやサム・シェパードなどを例にとりながら、演劇の「幽霊性」——存在と非在、可視と不可視、現実と虚構、役者と観客などのあいだの境界領域——をめぐって、現在のパフォーマンスによる過去の記憶の改変、境界侵犯による反復回帰としての演劇のあり方やジャンルの書き換え、劇作・上演技法そのものの間テクスト性への傾斜といった様々の論点を提示し、これからの演劇研究における幽霊的なものの重要性を指摘した。

いずれも卓抜な着眼と強靱な論理性に裏打ちされ、含蓄に富む刺戟的な発表だったと思う。ちなみに小谷は「フォークナーと<境界>」と題して『行け、モーセ』と『墓地への侵入者』を取りあげ、アイク・マッキヤスリンは荒野での狩猟体験をとおして<境界>の存在しない理想郷としてのホームランドを幻視することによって、またチック・マリソンは「このころの真実」という身体化された言語をとおして、それぞれカラーラインに根ざした南部の規範を越えようとするをシンプルに論じた。

<境界>というテーマによる本シンポジウムの議論がどこに収斂していったか、あるいはいかなかったかについての判断は聴衆のみなさんにゆだねるしかないが、すくなくとも個人的には、多種多様な切り口、論点のなかから、<境界>は自他を区別し自己同一性の確立の根拠となるものでありながら、同時にそれが何かを隠蔽するものでもあること、また逆に境界線を引くことによってこれまで見えなかったものが新たに見えてくることなどを、具体的に確認できたのではないかと考えている。

当日はあいにくの雨であったが、朝はやくからおいでくださったたぶん 40 名以上の聴衆のみなさん (40 部準備していたハンドアウトが途中で追加補充されていた)、会場の準備をしてくださった北九州市立大学の先生方ならびに学生のみなさん、そして充実した発表をご披露くださった三人の講師の先生方に厚くお礼を申し上げます。

地区便り

<北九州地区>

北九州市立大学 齊藤園子

北九州地区からは（１）九州アメリカ文学会第 64 回大会 （２）アメリカ学会第 52 回年次大会 （３）北九州アメリカ文学研究会の活動 （４）海外の研究者と共に開催する講演会（6月16日） についてご報告します。

（１）九州アメリカ文学会第 64 回大会

5月12日（土）13日（日）に北九州市立大学で九州アメリカ文学会第 64 回大会が開催されました。開催校では前田譲治先生が準備を主導されました。大会では研究発表に続き、早瀬博範会長のご司会のもと舌津智之先生（立教大学）による特別講義、小谷耕二先生のご司会のもと他支部から牧野理英先生（日本大学）をお迎えしてシンポジウムが開催され、盛会のうちに終了いたしました。九州支部の先生方の多大なご尽力に感謝申し上げます。

（２）アメリカ学会第 52 回年次大会

6月1日（金）～3日（日）に北九州市立大学でアメリカ学会第 52 回年次大会が開催されました。北九州市制 55 周年の記念事業でもあります。記念イベントとして、6月1日（金）と2日（土）の午後に一般公開のイベントが開催されました。2016年に熊本県立大学で開催される予定だった大会内容が盛り込まれました。6月2日（土）、3日（日）には多岐に渡る分野で、数々のパネル、ワークショップ、部会や分科会が開催され、盛会のうちに終了いたしました。

（３）北九州アメリカ文学研究会の活動

北九州アメリカ文学研究会は乗口眞一郎先生が代表を務めていらっしゃる研究会です。定期的に研究発表会や講演会を開催し、年一回、会報を発刊されています。北九州アメリカ文学研究会の昨年 11 月来の活動は次のとおりです。

○第 6 回講演会

日時： 2017 年 11 月 18 日（土）14：00～16：30

会場： 北九州市立大学 北方キャンパス

演題： ヘンリー・ジェイムズと「憑りつかれた意識」

（Henry James and “the Haunted Consciousness”）

講師： 別府恵子氏（神戸女学院大学名誉教授）

司会： 乗口眞一郎氏（北九州市立大学名誉教授）

○第 11 回研究発表会

日時： 2018 年 3 月 3 日（土）14：00～17：00

会場： 北九州市立大学 北方キャンパス

[研究発表1]

題目： 日本の児童音楽文化における英語原曲からの翻案の考察
発表者： 佐藤慶治氏（九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程）
司会者： 村田希巳子氏（北九州市立大学非常勤講師）

[研究発表2]

題目： パールバックの原爆小説を読んで
発表者： 穴井孝好氏（アメリカ文学研究者）
司会者： 山村栄子氏（アメリカ文学研究者）

(4) 講演会の開催

日時： 2018年6月16日（土）11:00～12:30

会場： 北九州市立大学 小倉サテライトキャンパス

※アミュプラザ小倉7F（JR小倉駅直結）

演題： Official Worlds in American Literature

講師： マーク・セルツァー教授（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）

※教授の近著と合わせて、ヘンリー・ジェイムズ作品を扱って講演が行われる予定です。九州アメリカ文学会の助成をいただき、北九州アメリカ文学研究会や九州ヘンリー・ジェイムズ研究会が関わって開催いたします。講演会の様子は次号にてご報告いたします。

セルツァー教授は、同じ週の6月14日（水）9:00～10:30にも北九州市立大学北方キャンパスにおいて、主に学部生を対象とする特別講義が行われます。希望者はどなたでも聴講可能で、市民にも開かれた講義となる予定です。

<熊本地区>

熊本大学 池田志郎

地震から2年が過ぎましたが、まだ仮設住宅で暮らしている人もたくさんいますし、プレハブ校舎で授業をせざるを得ない学校もまだまだあります。熊本の夏の暑さを考えると、過酷な状況です。そのような中、教育実習で頑張っている学生たちを見ると、元気付けられます。教育機器など大きく進化しましたが、いつの時代も、最終的には人間力の問題に行き着くようです。しかし、文学は人間力向上にどのように貢献しているのでしょうか。さて、熊本地区の熊本アメリカ文学研究会では以下のような活動を行いました。

○第140回（2017年12月2日）熊本大学にて

題目：“After Twenty Years”：中学校英語教科書教材として
発表者：池田志郎（熊本大学）

司会者：田口誠一（尚絅大学）

* 中学校英語教科書に載っている“After Twenty Years”を取り上げ、教科書上の制約や生徒たちの関心に配慮しつつ、物語の展開と **surprise ending** に主眼を置いて編集されていることに注目し、伏線の処理、中学生に近い年齢、将来を語るきっかけにできることなど、しっかりと教材研究をすることによって、大きな可能性が開けることが発表されました。また、原文との比較によって失われたもの、さらなる改良の可能性など、馴染みのある作品なので、参加者からもたくさんの意見が出され、盛会でした。

例会後の和やかな忘年会も参加者の親睦を深める良い機会となりました。

○第 141 回（2018 年 2 月 17 日）熊本大学にて

題目：仮面と告白 — Louisa May Alcott の *Hospital Sketches* (1863) におけるリアリズム

発表者：山本幹樹（熊本大学非常勤講師）

司会者：池田志郎（熊本大学）

* この作品をルポルタージュといえるのかという問題提起から始まり、時代背景も交えながら、戦争のメタファーと家族のメタファーを利用した作家としての **authority** に注目し、仮面を付与することと仮面を暴くことの意味について言及、さらに、仮面の告白を指摘することによって、Alcott のリアリズムを明らかにするという発表でした。奴隷解放令やナイチンゲールへの言及、仮定法とリアリズムの関係、比喩の用い方などにも注目した、刺激的な発表でした。

○第 142 回（2018 年 4 月 21 日）熊本大学にて

題目：*The Member of the Wedding* における Frankie の成長：
Frankie から F. Jasmine そして Frances へ

発表者：原口昌子（熊本大学非常勤講師）

司会者：濱田比呂美（熊本大学非常勤講師）

* この作品における Frankie の恐怖と孤独と変化、**identity** の模索、目覚めなどに注目し、Jasmine の思春期の特徴、両性具有、子供時代からの別れ、Frances の家出の不安、未来の解釈など、時間が足りないくらいの発表でした。参加者からも性的な要素、音楽的な要素、3 人の年齢差、John Henry はなぜ死んだのか、など活発な質疑応答が行われました。この作品の魅力と奥深さを改めて教えられました。

<長崎地区>

長崎県立大学 山田健太郎

長崎地区委員の山田です。今回は長崎に最近来られました松尾直美先生に近況のお便りをお願いいたしました。以下、紹介させていただきます。

福岡から故郷長崎に戻り、約 1 年半ほどになり、自身の研究フィールドでもあり、個人的

関心を持って追っている「原爆」というテーマを被爆地でより身近に追うことができているように感じます。その中で思うのが昨今の傾向として集団の歴史やポリティクスの中で埋もれていた個人の物語に踏み込んだ作品やドキュメンタリーがようやくメディアに多く登場してきたということです。日系アメリカ文学においても、No-No Boy の作者であるジョン・オカダの未発表の作品やあまり公にされてこなかった彼の人生についての調査・研究を収録したコレクションが University of Washington Press より 6 月に出版されます。反トランプ政権の象徴として日系アメリカ人の収容所が頻繁にメディアで取り上げられる中で、夭逝の作家であるオカダにスポットライトが再び当たるのは偶然では無いような気がします。(文責：松尾直美)

<鹿児島地区>

鹿児島大学 千代田夏夫

青梅も黄色く熟す頃となりました。千葉義也先生（鹿児島大学名誉教授）はヘミングウェイ協会ニューズレター74号に「わたしとこの一冊―回想―」を寄稿しておられます。仙台で学ばれた先生が鹿児島へいらっしゃって45年、フィリップ・ヤング編『ニック・アダムズ・ストーリーズ』とご自身のご論考をめぐってつむぎ出された多くの先生方との交遊を、芳醇な文章で綴っておられます。森孝晴先生（鹿児島国際大学）は4月より同大学大学院の国際文化研究科長に就任されました。ジャック・ロンドンに影響を与えた薩摩武士についてのご論文のシリーズは、第5部の「長沢鼎のバロン・ナガサワ、ブドウ王への道―ワイナリー経営者・研究者として」が『鹿児島国際大学国際文化学部論集』第18巻第4号に、また第6部の「ブドウ王、バロン・ナガサワとしての発展―長沢鼎の結婚観と交友関係」が『鹿児島国際大学ミュージアム調査研究報告』第15集にすでに掲載され、第7部の「長沢鼎のワイナリーの発展と家族の誕生」と第8部の「長沢鼎のさらなる帰国と様々な苦難と永遠の別れ」は『鹿児島国際大学国際文化学部論集』の第19巻第1号に掲載予定、そして第9部もすでに脱稿されたこれら第1部から第8部までの一連のシリーズは、7月には1冊の本となって世に送り出されるとのこと、拝読できる日が待ち遠しい限りです。また、鹿児島大学で6月16日に開催される日本ジャック・ロンドン協会の第26回年次大会では、鹿児島国際大学大学院博士後期課程のお二人が研究発表を、そして森先生によるご講演も予定されています。

事務局からのお知らせ

1. 2018年度日本アメリカ文学会第57回全国大会は10月6～7日、東京の実践女子大学で開催されます。
2. 日本英文学会第71回九州支部大会は10月20～21日、九州女子大学で開催されます。
3. 九州アメリカ文学会第65回大会は2019年5月11～12日、琉球大学で開催されます。
4. 九州アメリカ文学会出版助成金規則が一部改正されました。主な改正内容は以下の通りです。
 - ・ 一件につき、助成限度額が300,000円であったものを、100,000円とする。
 - ・ 出版助成申請書類の提出期限が2月末日であったものを、1月末日とする。
5. 今年度も引き続き学会事務局は佐賀大学に置かれています。

〒840-8502

佐賀市本庄町1 佐賀大学全学教育機構内

九州アメリカ文学会 TEL (0952) 28-8295

会費に関する問い合わせは名本達也 (namotot@cc.saga-u.ac.jp)、
会費以外の件に関する問い合わせは鈴木繁 (suzukis@cc.saga-u.ac.jp)
までお願いいたします。

(鈴木 繁)

2018年度役員・委員名簿

変更を下線で示す

会 顧	長 問	早瀬 博範 (佐賀大) 橋口 保夫 野口 健司 野田 壽 安河内 英光 山里 勝己 (名桜大) 小谷 耕二 (福岡女子大)
事 務 局 長 幹 事		鈴木 繁 (佐賀大) <例会担当> <u>坂井 隆 (福岡大)</u> <例会担当> 下條 恵子 (九州大) <大会担当> 高橋 勤 (九州大) <九州アメリカ文学賞担当> 高橋 美知子 (福岡大) <ニュースレター担当> 銅堂 恵美子 (福岡大)
会 監 編 集 委 員 長 本 部 代 議 員	計 査 編 集 委 員 長 本 部 代 議 員	名本 達也 (佐賀大) 秋好 礼子 (福岡大) 前田 譲治 (北九州市立大) 早瀬 博範 鈴木 繁
本部大会運営委員		光富 省吾 (福岡大)
本部編集委員 (支部選出)		<u>藤野 功一 (西南学院大)</u>
本部サイト運営委員		岡本 太助 (九州大)
編 集 委 員		前田 譲治 齊藤 園子 (北九州市立大) 大野 瀬津子 (九州工業大) 肥川 絹代 (近畿大) Scott Pugh (西南学院大) David Farnell (福岡大) Wayne Arnold (北九州市立大)
地 区 委 員		<u>齊藤 園子</u> <u>鈴木 繁</u> 山田 健太郎 (長崎県立大) 池田 志郎 (熊本大) 雲 和子 (大分大) 井崎 浩 (宮崎大) 千代田 夏夫 (鹿児島大) 喜納 育江 (琉球大)
支部サイト運営委員		岡本 太助 藤野 功一

2018年度年間行事予定

3月31日(土)	日本アメリカ文学会第57回全国大会発表者応募締切
4月上旬	日本アメリカ文学会第57回全国大会応募者選考
4月中旬	九州アメリカ文学会第64回大会プログラム発送
4月30日(月)	『九州アメリカ文学』59号原稿応募締切
5月12日(土)	九州アメリカ文学会第64回大会(北九州市立大学) 研究発表、総会、講演会、懇親会
13日(日)	同上、シンポジウム
6月下旬	KALS NEWSLETTER 57号発行/配信
8月中旬	第1回例会案内配信
9月1日(土)	第1回例会
10月6日(土)	日本アメリカ文学会第57回全国大会(実践女子大学)
7日(日)	同上
10月20日(土)	日本英文学会第71回九州支部大会(九州女子大学) 「アメリカ文学部門シンポジウム」
21日(日)	同上
11月上旬	第2回例会・忘年会の案内配信
11月下旬	『九州アメリカ文学』59号発行/発送 KALS NEWSLETTER 58号発行/配信
12月上旬	第2回例会(未定)、忘年会
2019年	
1月31日(木)	九州アメリカ文学出版助成金応募締切
2月20日(水)	九州アメリカ文学会第65回大会発表者応募締切
2月20日(水)	九州アメリカ文学賞 応募締切
2月下旬	九州アメリカ文学会役員会・文学賞選考委員会の案内発送
3月上旬	九州アメリカ文学会役員会(佐賀大学) 出版助成金選考/九州アメリカ文学会第65回大会発表者決定 九州アメリカ文学賞選考委員会
3月31日(日)	日本アメリカ文学会第58回全国大会発表者応募締切
4月上旬	日本アメリカ文学会第58回全国大会応募者選考
4月中旬	九州アメリカ文学会第65回大会プログラム発送
4月30日(火)	『九州アメリカ文学』60号原稿応募締切
5月11日(土)	九州アメリカ文学会第65回大会(琉球大学) 研究発表、総会、講演会、懇親会
12日(日)	同上 シンポジウム